

「福島、その先の環境へ。」

ありがとうの反対言葉

福島大学農学群食農学類3年 高橋優花

# ありがとうの反対言葉

**「ありがとうの反対言葉は、当たり前」。**

有ることが難しいと書いて「有難う」。人々は当たり前だと思っていた日常を失ったときはじめてその有難さに気が付きます。

原発事故によって失われた福島の当たりの日常。

私は、福島の当たりの日常を取り戻す未来を創りたいです。

# 一番大切なこととは知ってもらうこと

## 復興

多くの理解と協力→交流人口を増やす

## 理解・協力

- ・ひとりひとりの経験が重要。
- ・現状や人々の想いを実際に自分の肌で感じる  
→福島での未来の構築に携わりたいという気持ちが高まる  
その場で感じたことや直接聞いたことが一番心に響く

まずは私が経験してきた活動をご紹介します。

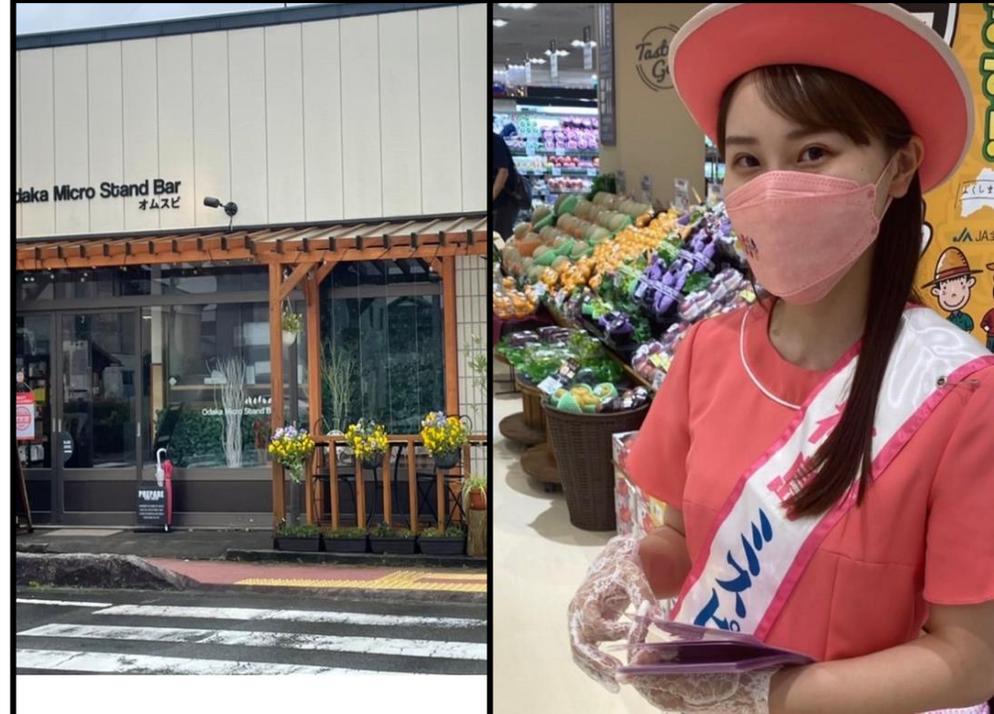
# 活動紹介

## ◆農業とスポーツを繋ぐ取り組み

ボランティアとして行っている新プロジェクト。企画の最終目標は、震災で無人となってしまった小高地区で農業とスポーツを繋ぎ、現地に活気を取り戻すこと。

## ◆2021ミスピーチキャンペーンクルー

昨年度、風評被害の払拭を目的に1年間、全国各地で福島県産果物のPR活動を行わせていただきました。しかし、霜の被害を受けた時期には、大きさや価格設定に関してお客様から厳しいご意見をいただいたこともありました。



## その他の活動

- ・ 遊び場を無くした子供たちを笑顔を届ける活動
- ・ 再生可能エネルギーの推進地区での農作業ボランティア
- ・ 子ども食堂のお弁当作り 等

## これらの経験を通して

多くの方から「ありがとう」と言ってもらえたことで微力でありながらも復興の力になれたと感じた。

沢山の「ありがとう」と引き換えに1日でも早く、当たり前前の福島の日常が訪れる日を強く願うようになった。

# 多くの復興事業に参加した理由

→知れば知るほどもっと知りたくなったから。

→活動を重ねていくうちに、さらに力になりたいと思ったから。

この感覚をより多くの方に感じてもらうことが福島未来創りの協力者を増やす鍵になる。

復興事業に参加してくれる方の母数を増やすことに執着せず、復興に関わった方の経験がより良い時間になるよう工夫を施し、経験の質を向上させていくことが大切。

そのための新たなアイデアを考案します。

# アイディア 当たり前・ありがとうカード

目的：被災の有無に関わらず自分自身の生活と重ね合わせることで復興を他人事と思わない前向きな考え方を促す。

方法：復興事業に参加したことで感じたこれまでの当たり前と、あらためてありがとうと感じたことを書き出してもらおう。

設置場所：りぷるんふくしま等の復興関連施設や小・中学校の教育現場でこのカード配布し自由に記入してもらおう。回収したカードの中から特に素敵な作品を新聞やHP等で紹介することで広報活動にも繋がる。

## 当たり前だと思っていたこと

毎朝自分のお家に帰れること。

安心して夜眠れること。

美味しいご飯を食べれること。

## ありがとうと感じたこと

お家に帰れなくなった方たちのために福島を綺麗にしてくれてありがとう。

大きな災害が無く一日を過ごすことができてありがとう。

美味しい農作物を作ってくれてありがとう

# 最後に 福島の未来への想い

悲しい経験をしてきた福島 ≠ 「悲しい町」

逆境に対しても強い志で挑み続ける = 「進化の町」

知り合いの農家さんは、今の目標を、震災前の水準に戻すことでは無く、「震災前をはるかに超えること」だとおっしゃっていました。福島の方々の想いや故郷への愛情は想像を絶するほどです。その想いが報われる未来を祈るとともに、これからも福島の未来に繋がる行動を心がけたいです。

自分を成長させてくれた復興の地、福島には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも沢山の方から愛される福島であることを心から願っております。